

第 23 回ショパン国際ピアノコンクール in ASIA 総評 プロフェッショナル部門 - 最終審査

●審査員 A

他の音楽家と一緒に演奏することは、ソロと比べるととても新鮮で楽しい体験になり得ます。一方で、特に時間の使い方に関しては、窮屈に感じるときもあるかもしれません。是非、指揮の技術をもっと磨くことをお勧めします。リーダーとして引っ張っていくことを恐れなくてください。そのようなスキルは、日常生活でも役に立つかもしれませんよ。みなさんのご成功をお祈りしています。

●審査員 B

2次予選から1日おいてのコンチェルトなのでソナタ全楽章との両方を弾きこなす能力が問われる。今回はカルテットとの共演で実力を発揮できた方と明暗をわけた様に思う。ソロと違い伴奏を聴いて弾ける余裕をもったのぞんで欲しい。

●審査員 C

- ・フレーズごとにまとまりのある表現で全体の流れを創って行ってほしい。
- ・コンチェルトのソリストとはいえアンサンブルの意識を持ってテンポと拍子をきちんと体の中で保ち奏でることが必要。
- ・今回のようなカルテットと共に演奏する場合は自分自身が指揮者としても全体像をきちんと把握して表現していくことが重要です。
- ・自分だけの世界に入らず、カルテットとのかけ合いを楽しめるようにオーケストラパートの部分もきちんと練習しておくことは必須で、ひとつの作品をオーケストラと創り上げていく上で重要なことです。
- ・オーケストラの響き、倍音を感じてその中で自由に主張していくことを心がけていきましょう。

●審査員 D

- ・ソロとは異なるバランスの取り方、ソリストとしてあるべき価値を音質として表せるようにしたいですね。粒の立ち上がる、輝きのあるソリストの音が必要。
- ・弦楽器の響き、圧、こすって出す楽器の特質を理解してひとりで練習するときから考えておかないと、響きが融合してひとつの音楽をつくることができませんね。
- ・1movの2ndテーマは音の強弱、バランスを変えるだけでなく空気、波動を変えましょう。
- ・パッセージでは難しさに気をとられて直線的に棒弾きしないよう注意しましょう。左手の和音進行にフレージングのヒントがあります。弦楽器の仕事もしっかりと把握して構築しなければなりません。
- ・3movの舞曲（1番も2番も）の特色を理解して演奏してほしいです。

●審査員 E

- ・全体にアンサンブルの自然な流れがありました。
- ・オケが特に中音域がソリストにききづらかったかもしれません。これからいろいろアンサンブルを理解して下さい。

●審査員 F

- ・どんどんレベルが上がってきており、非常に楽しみながら聴くことができました。それぞれの人が自分の個性や欠点を自覚し、更に高い境地を目指して演奏に磨きをかけて行って欲しいと思います。必ず成果があがることでしょう。